

未来のまちづくり推進特別委員会記録
【速報版】

令和8年2月5日開会

速報版

- ・この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横浜市会

開会時刻 午前10時00分

◎ 開会宣告

- 東みちよ委員長 これより委員会を開会します。

本日の欠席委員は、田中委員、そして山田委員でございます。

上着の着用は、御自由をお願いします。

◎ 調査・研究テーマ「つなぐーイノベーション推進と循環型経済のための多様な連携促進」について

- 東みちよ委員長 それでは、議題に入ります。

調査・研究テーマ、つなぐーイノベーション推進と循環型経済のための多様な連携促進についてを議題に供します。

なお、本日はオブザーバーとして、政策経営局、経済局、都市整備局の関係職員にも御同席いただいておりますので、御了承をお願いいたします。

初めに、本日の委員会の進め方を御説明いたします。

本日までに、自由民主党、公明党、立憲民主党・無所属の会、日本維新の会・無所属の会、国民民主党、地域政党よこはまの委員の皆様からそれぞれ行政視察を実施し、他都市における事例を調査いただきました。そこで、本日はまず、これらの行政視察につきまして各会派から御報告いただきたいと思っております。

なお、地域政党よこはまの山田委員につきましては、本日欠席のため、御報告は割愛させていただきます。

次に、本委員会の中間報告書の作成に向けましては、中間報告書の構成案を御確認いただき、委員の皆様からまとめに向けた御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、行政視察の報告ですが、資料1を御覧ください。

視察月日等は記載のとおりでございますので、視察実施順に各会派から御報告をお願いします。

それでは最初に、国民民主党からお願いします。

- 熊本ちひろ委員 私は、昨年8月25日と26日で福岡県のほうに行ってまいりました。福岡県のグローバルコネクトというところと一般財団法人九州オープンイノベーションセンターを視察してまいりました。

まず、グローバルコネクトから御報告いたします。

まず、このグローバルコネクトですけれども、福岡県の事業となっております。まず、福岡県の昨年4月24日に西鉄が建てられたワン・フクオカ・ビルディングという建物がオープンをいたしました。ここの中にCICというケンブリッジ・イノベーション・センター、アメリカのボストンにあるスタートアップ支援の拠点の団体が入れられて、その一部に福岡県のグローバルコネクトも入れられているということになります。

グローバルコネクトは、スタートアップ支援を主に行っているのですが、主な事業内容として、1つ目に、資金調達、ビジネスマッチングを行っております。これは、ピッチイベントというものを月1で開催されていて、このイベントは何かといいますと、スタートアップが登壇して5分ぐらいビジネスやサービスなどのプレゼンを行い、そこで資金調達をしてくれる投資家とマッチングさせるというような事業になっております。

福岡のワンビル自体が西鉄のコンセプトで、出会い、共創の場ということで、6階がイベント施設になっているのですが、ビル自体も必ず6階でエレベーターを乗り換えなきゃいけないという構造になっていて、上の高層階のオフィスの方も必ず6階に下りて乗り換えて下に行くというような構造になっています。その6階のフロアで毎週木曜日にイベントを開催しているということで、C I Cの姉妹団体のベンチャーカフェという団体がありまして、そこが毎週木曜日、Thursday Gatheringというイベントを開催しています。このイベントはコミュニティーをつくるということを目的にしている、その中でグローバルコネクトもこの一部を借りてイベントを行って、マッチングだとかコミュニティーをつくっているということです。

2つ目の事業としまして、人材支援を行っているということです。福岡県CXOバンクを運営していて、これは何かといいますと、高度経済経営人材、CEO、CFO、CMOがこのバンクに副業として登録をして、例えばスタートアップで資金調達に困っている方がいれば、そのバンクからCFOを紹介してマッチングさせていくという事業になります。このCXOバンクは今700人以上の方が登録していて、この登録している方は主に関東圏内の方が多いということです。

例えばスタートアップで資金調達に困っている方がいたら、先ほど申しましたが、CFO人材を紹介して、金融機関からの融資を受ける場合と投資家からの投資を受ける場合ではプレゼンの仕方も違うし、見せる数字も違ってくるということなので、このCFOからのアドバイスを受けて、プレゼンとかもブラッシュアップして資金調達をしていくという形になります。これまでにこのマッチングを50件ほどされていて、CFO人材を紹介後にスタートアップは約1か月で数千円ちょっとの資金を調達したということでした。そのほかにも海外の展開支援だったり個別相談にも応じているということで、様々なスタートアップ支援をされていました。

もう一つの2日目に行きました九州オープンイノベーションセンターでも、官民連携でスタートアップを支援していくというような事業をされていました。私が印象に残ったのは、大学とも連携して、大学と起業家をマッチングさせるみたいなのもやっていて、例えば大学では様々な研究を行っていて様々な技術があるけれども、経営の能力だったり起業という能力はそんなに持っていないということで、そこをマッチングさせて、うまくこの技術をビジネスに変えて社会課題を解決していくみたいなのをやられていて、そこがすごく印象に残っております。

まとめとしまして、本市、横浜市では市政のデータ経営に力を入れていると思っております。技術のニーズやシーズをデータの力で見える化を行い、さらに市政だけでなく様々な団体と連携してマッチングを強化する必要があるのかなと感じております。横浜のスタートアップの評価額はかなり今低い状態なので、しっかりと官民連携だったりマッチングを通して、横浜市だけでなく、いろいろなところと連携して、さらにスタートアップ支援に力を入れていただきたいと思いました。

- 東みちよ委員長 ありがとうございます。次に、立憲民主党・無所属の会の報告をお願いします。
- 大岩真善和委員 我々は、9月2日と3日に谷田部先生と2人で視察に行っていました。

2日とも場所は違うのですが、公益法人大阪産業局が運営している1日目は5Gの実証実験を行っているX LAB OSAKAという場所を見に行きました。2日目は、ものづくりのビジネスマッチングとか、いろいろ展示なんかをやっている、ものづくりビジネスセンター大阪、略称はMOB I Oと言うのですが、そこを見ております。

まず、前者のほうなのですけれども、前者のほうは、製造・小売り、医療・ヘルスケア、建設、観光・エンタメ、スマートシティ、特設展示でAIの7種類について、4Gから5Gになるということで、5Gを使ってどのようなことを行うことができるのかという実証実験を行っているスペース、その展示をやっているスペースになっております。一応、大阪市と、ソフトバンクと、公益財団法人大阪産業局と、あともう一つ、民間企業が入って共同事業として運営されている検証ラボとなっております。

特徴としては、常設展示しているので、いつ行っても見たり体験したりできるのですけれども、3年前から大阪・関西万博に先駆けてサテライト万博という形で、万博の会場の1駅隣の場所にあるのですけれども、その場所で5Gを使ったいろんな新しいサービス、IoTとか、ロボットとか、ドローンなんかをある程度いろんな自由に使えるような、特区までは行かないのですが、民間企業の人が入ってきていただいて実証実験をできるような場所となっているというのが特徴となっております。

前者はそんな話で、後者はものづくり中小企業の支援を総合的にやっているスペースになるのですけれども、国内最大級の常設展示場及びビジネスマッチングとか販路開拓、産学連携相談、知的財産活動の支援、セミナー活動などを、幾つか施設が大阪の経済局がやっているやつがあったのですが、この大阪市の府市統合の流れで産業局というのが府と市の経済分野を切り出して新たにできまして、今250人ぐらいらしいのですけれども、統合したときに職員じゃなくて民間企業からも結構優秀な人にいっぱい入っていただいて、今も入ってきているらしいのですが、我々が見てきたのですけれども、大阪市の経済局というよりは、何か大分民間の皆様が感覚に近いのかな、やっていることとか、実証実験とか、スピード感等も含めて、だから横浜市としてもその辺りが大変見習うべきなのかなと思いました。

特徴としては、産学連携を強化しております、これは国内最大級らしいのですけれども、200の有料ブースというのを設けてます。1区画月2万円なのですが、そこからお金が入ってきているので、ある程度自主財源で運営ができています。そこにコーディネーターというか説明する技術に詳しい専門家の方がいらっしゃるの、横浜市でもコーディネーターみたいな方はいらっしゃるんですが、常設展示をするようなところはないですし、あと大阪市というのは東大阪とか、いろんなロケットの部品を作る会社とか、意外ととんがった技術を持っている優秀な中小企業がいらっしゃるののですけれども、展示場に見に行くと、これは実はこういうストーリーで、こういう苦労があってこの製品ができましたみたいなことを幾つか解説していただきましたので、そういうのがあると、なるほどというか、そういうふうに感じた次第でございます。

あと、コーディネーターの強化を産学連携する上でしたそうでございます。大学のほうは、学部や学科とか、あといろいろやっている研究や開発、教授によったりとか所属している部署によって、大学によったり部署によって全然違うのですけれども、その内容までも理解していますし、あと企業については、研究分野とか、あと予算の執行状況とかも理解をしていて、大学のほうのアカデミーの状況が解像度が高く、よく知っているということと、企業のほうが研究開発分野で何を求めている、何を今後目指しているのかという両方の分野を分かっている人材を採ったりとか、契約したというのが大変重要なかなと思っております。

ですから、産学連携や公民連携とかは大変難しい分野ではあると思うのですけれども、非常に可能性が高い、横浜市ではまだ未開拓の分野だと思いますので、ぜひ我々の市としても強化をしていきたい分野なのかなと思っております。そのためには、両分野を橋渡しするような人材、コーディネーターですね。コーディネーターは、ただOBの人を採れば良いということじゃなくて、本当にスキルがあって両方の分野のことが分かっている優秀で、あとコミュニケーション能力が高い人を入れることが、産学連携や公民連携とか、あ

とイノベーションを行う上で大変重要なのかなと我々は考え、報告書ではまとめさせていただいております。

- **東みちよ委員長** ありがとうございます。次は公明党より報告をお願いいたします。
- **久保和弘委員** 私ども公明党といたしまして、11月13日と14日の2日間、福島委員とともに2つの都市を訪問させていただきました。1つ目は愛知県で、項目としましては次世代モビリティ産業振興の取組についてということで聴取いたしました。2つ目に広島県では、カーボン・サーキュラー・エコノミー実現に向けた取組についてということで伺ってまいりました。簡潔に報告させていただきます。

まず、次世代モビリティ産業の取組についてということで、その中の大きく一つの項目といたしまして、次世代空モビリティというものを伺いました。これは簡単に言いますと、次世代空モビリティというのは、ドローンや空飛ぶ車とかを使いまして、いわゆる従来の飛行機とかヘリコプターとは異なる新しい空の移動手段と、この技術の総称のこととございました。いわゆるドローンで物流、貨物を搬送・輸送したり、空飛ぶ車による人の移動などということの空の利活用の可能性を広げると、そういう取組とございました。

その中で、この愛知県における次世代モビリティの産業振興の取組については、社会課題の解決と新たな産業創出を同時に進めている点が特徴であると感じました。この次世代モビリティのことですけれども、空と道がつながる愛知モデル2030を掲げまして、物流や人の移動、また災害対応なども、地域の特性に応じたモデルを設定いたしまして、実証から事業化までを見据えた取組が進められておりました。単なる実験に終わらせることなく、料金徴収可能な仕組みづくりを目指している点とか、こういうところは、まさに持続可能な事業として成立させる姿勢が明確であり、印象的とございました。

この自動運転分野、いわゆる車等の自動運転でございますけれども、ロボットタクシーや高速バス、公園内の移動支援など、地域の実情に応じた多様な実証が行われておりまして、移動手段の確保や観光の振興といった社会課題の解決につながっていると感じました。また、コンソーシアムによります市町村支援とか、スタートアップ育成拠点の整備など、社会実装を後押しする体制というものも整えられているという点も大きな強みじゃなからうかと感じました。

これらの取組が自動車産業という、いわゆるトヨタとかを中心としながら、既存の基幹産業を基盤に次世代技術へと転換を図るという戦略的な産業政策であり、自治体の果たす役割の重要性を示す好事例の一つであると感じました。これらをしっかりと本市の施策にも生かす部分は生かせるというところがあるのではないかと、そのように感じました。

もう一つ、広島県についてでございますけれども、こちらはカーボン・サーキュラー・エコノミー実現に向けた取組ということでもありますけれども、広島県のこの取組は、感じましたのは脱炭素の取組を単なる環境対策という範囲にとどめず、産業の振興や人材育成、地域経済の活性化と一体的に進めている点であろうかと思えます。特に、産学官が連携する協議会を設置しまして、研究から実証、そして社会への実装までを切れ目なく支援するという、こういう仕組みが地方自治体として非常に実効性の高い取組であると感じました。

もう一つ、若手研究者の支援です。次世代への教育にも力を入れているというところもございまして、短期的な成果ではなく、中長期的な視点で人材育成を進めているという点も重要じゃないかと思えます。広島県は土地柄、瀬戸内海岸部を中心にしたもの、そういう素材産業とか、マツダを中心とする自動車関連産業、また化学産業など多様な産業が集積しておるのですね。そういうところで技術開発や事業化を進める上で強固な産業基盤を有していると思えます。

さらに、今度は中国山地の山もありまして、そういう森林資源を生かしたグリーンカーボンとか、また瀬戸内海の藻場を活用したいいわゆるブルーカーボンなど、地域の自然環境を生かした取組も進められておりまして、産業と自然が近接して存在しているということが大きな強みとなっております。本当に海と山を上手に利用されているのだなと感じました。こういう環境にありまして、研究開発から実証、社会実装までを一体的に進めることが可能であり、このカーボン・サーキュラー・エコノミー分野における実証フィールドとして非常に適した地域であるとも感じました。

本市においても、また土地柄は地理的には様々違いますけれども、一つの参考事例としながら、脱炭素と地域産業の発展を両立させる、こういう施策についても今後検討に生かしていくことも必要であると、このように思いまして、簡単ではございますけれども、うちとしての概要報告といたします。

○ **東みちよ委員長** ありがとうございます。ちなみに、この資料1に愛知県でなく愛媛県となっているので、これは書記の間違いではないかと思しますので、訂正をお願いします。

○ **久保和弘委員** それは間違いですね。

○ **東みちよ委員長** 次に、自由民主党の報告をお願いします。

○ **伊波俊之助委員** 我が会派としましては、次の視察先へ行ってまいりました。11月17日、そして18日でありますけれども、公益社団法人大阪産業局、これは大阪府の大阪市であります。大阪イノベーションハブの取組について。次に、ゲストハウス&サロン京都月と、京都府の京都市です。循環型経済とコミュニティー、空き家活用の取組について。次に、京都市議会、京都市における空き家対策と循環型経済の取組について行ってまいりました。

まず最初に、公益社団法人大阪産業局、大阪イノベーションハブの取組については、大阪におけるスタートアップ創出等支援について、そしてエコシステム形成に向けた取組についてであります。

所見としましては、官民連携によるきめ細かなスタートアップ支援の意義とその進め方を理解いたしました。また、海外進出も見据えた発展のためにはディープテック、大学の研究シーズへの重点的なサポートも今後必要である点、大阪万博を契機として国内外へアピールするディープテック関連の国際会議が開かれたことは注目すべきであります。2027年のGREEN×EXPOにおいても、そうした機会をつくっていただくことが重要だと考えます。

次に、ゲストハウス・サロン京都月との取組について、空き家対策としての相続、サーキュラーエコノミーの視点、課題など、まちづくりへの貢献についてであります。

所見としましては、京都市は全国でも空き家が多い地区であるが、空き家を活用したまちづくりはサーキュラーエコノミーの視点から考えても効果が大きいです。ここ月とでは、大学生、商店、地域住民なども上手に資源として生かし、環境の輪を広げていることが感じられました。

最後に、京都市議会であります。京都市における空き家対策と循環型経済の取組について、空き家の現状について、京都における空き家対策条例、新税導入についてであります。

所見としましては、横浜市においては人口減少、高齢化などによって空き家が増加しており、対策は急務でございますが、なかなか進まない実情もございます。京都市においては、調査、指導なども専門家に業務委託することによって積極的な空き家対策、流通を促し、まちづくりにも貢献していることは評価ができると思います。全国に先駆け、空き家課税ともいえる非居住住宅課税の導入を進める京都市の取組は参考にできると思います。

今回の視察のまとめでございますが、我が会派はイノベーション推進と循環型経済をテーマに様々な視点から視察を行いました。都市開発が進む大阪、または旧建築の空き家対策を行う京都、それぞれ異なる課題を抱えた地域ではありますが、まちづくりと一体になって進めることで循環型経済が一層好循環を生むことと実感をいたしました。

- **東みちよ委員長** ありがとうございます。次に、日本維新の会・無所属の会の報告をお願いします。
- **伊藤くみこ委員** では、御報告いたします。

私どもの会派は、11月17日～18日に田中委員と私で、兵庫県の起業プラザひょうごと和歌山県における紀陽銀行のスタートアップ支援拠点Key Siteを視察いたしました。

起業プラザひょうごでは、県と神戸市を中心に、行政、大学、医療機関、金融機関、企業が一体となったコンソーシアム型の運営が行われており、スタートアップ支援の窓口や意思決定が一本化されておりました。兵庫県は、大阪や京都という強力な競合都市に囲まれる中で自身の強みは何かを追求し、医療、ヘルスケア、バイオ分野など地域の強みを重点領域として明確にし、実証実験を受け入れる都市機能と結びつけている点はエコシステム形成において重要な視点であると感じました。

一方で、首都圏や大阪、京都と比較した際のスタートアップの数や投資マネーの不足、人材の確保の難しさ等の課題があり、他都市との差別化や独自性の発信が今後の大きなテーマであるとのことでした。

次に視察しましたのが紀陽銀行のKey Siteですが、こちらは人口減少や事業者数の減少といった地域課題に対し、金融機関自らがスタートアップ支援に踏み出し、旧銀行店舗を活用した交流拠点を整備しています。ワーキングスペースやカフェを通じて人の流れを生み、資金調達や販路拡大まで一体的に支援し、学生への優遇措置や地場産業とのマッチング機能を持たせる取組は、起業家の発掘や若者の都市流出を食い止める調整の拠点をつくるよい事例であると感じました。

今回の視察を通じまして、起業プラザひょうごのように本市においても強み分野への支援の集中、実証フィールドとしての都市活用、そして官民連携を束ねる司令塔機能の強化がスタートアップエコシステムのさらなる成長に不可欠であると考えます。また、Key Siteの取組は、本市においては例えば区単位で身近な起業の場の整備を行う場合などの参考事例になると思いました。

以上で報告を終わります。

- **東みちよ委員長** 各会派から御報告いただきました。ありがとうございました。

この各会派報告につきまして御質問等ありましたら、お願いいたします。

(発言する者なし)

- **東みちよ委員長** 特に御発言もないようですので、行政視察の報告についてはこの程度にとどめます。

次に、本委員会の中間報告書の作成に向けまして、事前に正副委員長において協議し、中間報告書の構成案を作成いたしましたので、私から説明させていただき、その後、委員の皆様から中間報告書のまとめに向けた御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、資料2の令和7年度未来のまちづくり推進特別委員会中間報告書構成(案)を御覧ください。

こちらにつきましては、本委員会の1年間の活動について以下のような構成でまとめていきたいというものです。

1 ページ目から3 ページ目にかけて、1、付議事件、2、調査・研究テーマ、3、テーマ選定の理由、4、活動内容・意見等として各委員会の議題や委員意見の概要等を記載いたします。

次に、5、つなぐーイノベーション推進と循環型経済のための多様な連携促進についてのまとめとして、これまでの委員の皆様のお発言や本日以降の内容を踏まえ、後日記載いたします。

私からの説明は以上でございます。

先ほど御報告いただいた視察の報告にも中間報告書のまとめに向けた御意見等がございましたように思いますが、皆様より何か御意見があればお願いいたします。

○ **伊波俊之助委員** 中間取りまとめ、お疲れさまでございます。ありがとうございます。

本委員会としては、イノベーション推進と循環型経済のための多様な連携促進を研究テーマとしてきましたが、この多様な連携促進という部分においては、従来の行政の在り方だけでなく、官民連携、地域をも交えて進めていくことがさらなるスピード感につながるものであると各会派の報告からもうかがえているところです。また、実際に横浜市立大学みなとみらいの視察でも実感したところです。そのための仕組みづくりなど、この成果が生かせる政策につなげていく形の報告書になればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○ **久保和弘委員** 1年間の活動のまとめとして、市の課題とか視察で得た知見についても、ぜひ、皆さんの発言もありましたので、記載いただきたいと思います。

また、それぞれの視察の中での項目でもいろいろありましたけれども、1点、私、ダブルコア型のまちづくりを進めることが重要ということもあったかと思うのですが、それについては山中市長のほうも、そういうお考えを今示されておりますけれども、本市におけますイノベーションの取組というのは、これまで御存じのとおり都市部を中心に進められてきたものでありますけれども、その成果が郊外部まで十分に今波及していないという点も一つ課題ではあるのじゃないかと感じております。このまま成長の恩恵が一部のエリアに偏るといよりは、むしろ市域全体に、市全体として活力の向上につながっていくと。イノベーションを都市部に集中させるだけでなく、郊外地域にも広げていくという都市内分散型の成長モデルということを構築することが一つ必要性があると、このように感じております。

具体的には、先ほど申し上げた臨海部の産業とか技術革新の中核的な位置づけとするとともに、郊外部も、GREEN×EXPOを控える上瀬谷においてもいろんなお考えが今後出てくるのだと思いますけれども、研究拠点とか実証フィールド、また企業活動の場としても整備しながら両者が連携して共に発展していくと、こういう山中市長のおっしゃるダブルコア型のまちづくりをしっかりと進めていくことも重要だと考えております。

また、未来機構ですとか、TECH HUB YOKOHAMAとか、YOXO BOXとか、様々な本市の頑張っているプラットフォームがあると思うのですが、これをしっかり連携強化して、それぞれがそれぞれのことを、決してやってないわけではないでしょうけれども、一つプラットフォームが共通していくとか、共同のプロジェクトじゃないですが、一つのところにまとまっていくという、そういうことも一つ取組としてあれば、よりいい方向に行くのじゃないかと思いました。

○ **福島直子委員** 私も似たような意見にはなりますけれども、市内には工業団地が幾つかありますけれども、そういうところでもいろいろな取組をされていて、今テーマは産業分野だけではないのですけれども、新産業というのですか、イノベーションというときに新しい技術と在来技術のマッチングというのは非常に重要な視点だと思うので、工業会なんかでもいろいろと工業団地を中心に様々なお取組をされていると思うのですが、広く市民に、関心のある方にそういった情報がさらに伝わるような取組に力を入れる必要もあるのかなと。

そういう中で、新しい出会いとか気づきが市民の中にもあるのではないかなと思いましたが、一言添えさせていただけたいと思いました。

- **大岩真善和委員** 私は、先ほど報告でも言ったとおりなのですが、イノベーションをするのであれば、いろんな産業分野とか、世界中のプレーヤーとか、技術とか理解しなければいけない、さっきのトレンドも含めてですね、結構知識が必要だと思うのですね。だから、専門分野、優秀な人材を民間企業からちゃんと入ってきていただいて、新たな産官学の連携するのを進めるのであれば、そのつなぎ役にちゃんと民間企業のこととか、スタートアップのこととか、循環型経済とか、そういうことに本当に詳しい人がいないと、多分、掛け声だけしていても進まないと思うので、実証実験のフィールドをどこにするのかというのも課題ですけれども、僕は人材じゃないかなと思うので、その辺り戦略を見直していただきたいなと思っています。

- **東みちよ委員長** ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。

(発言する者なし)

- **東みちよ委員長** では、特に御意見もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

皆様の視察報告及び様々な御意見、今後に生かせる、未来のまちづくりに生かせる貴重な意見が出たと思いますので、これを今後に生かして反映させたいと思います。

◇
◎ **閉会宣告**

- **東みちよ委員長** それでは、以上で本日の議題は終了いたしましたので、委員会を閉会いたします。

閉会時刻 午前10時37分

速報版